

愛媛大学女性未来育成センター Women Career Center at Ehime University Newsletter

<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/>

2011.1

2号

発行

愛媛大学女性未来育成センター

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

E-mail hime@stu.ehime-u.ac.jp TEL/FAX 089-927-8602

平成22年12月22日 農学部 多目的ホール/城北キャンパス メディアホール

第1回 学生・若手研究者キャリアパスセミナー開催

第1回学生・若手研究者キャリアパスセミナーを、樽味キャンパス・城北キャンパスにて、同日2回開催し、学内の学生や若手教員の方を中心に両キャンパス合わせて60名近くの方にご参加いただきました。

講演では、京都大学女性研究者支援センター・特任教授である犬塚典子先生より「女子力が創るイノベーション」というタイトルでご講演いただき、国際社会において女性の活躍が遅れている日本の現状を指摘され、男女共同参画における日本の政策の歩みをご自身のキャリアを交えてご紹介いただきました。そして女性研究者支援モデル育成事業について、ご自身が実際に携わった九州大学と京都大学での女性のキャリアパス支援方法や、組織の推進体制の事例の紹介に参加者の方々からは女性限定公募や研究支援員制度等について、様々な質問が寄せられました。

クエスチョンタイムでは、犬塚先生がそれぞれの事例や経験を交えて質問に答えられ、また質問者の方々をはさんで意見交換が行われました。「キャリアの継続には自身の努力が重要なのは当然ではあるが、人とのネットワークが活躍の場を広げ、周囲の理解や支えがあったから継続できたのではないか」という意見に様々な研究分野の先生方が賛同されていました。



▲京都大学女性研究者支援センター
特任教授 犬塚典子先生



▲農学部にて クエスチョンタイム

平成23年1月12日 愛媛大学本部(城北キャンパス)

第1回 管理職セミナー開催

平成23年1月12日(水)、第1回管理職セミナーを開催し、学内の管理職の方々51名のご参加をいただきました。

最初のセミナー講演では、東海大学名誉教授の佐々木政子先生より「大学における男女共同参画を考える-女性研究者支援とは?-」というタイトルでご講演いただきました。講演では、愛媛大学における学生・教員と職階別の女性比率を含めた国内外の女性研究者の現状と男女共同参画の取り組みについて、データや実例を交えてご紹介いただきました。

続いての講演では、九州大学研究戦略企画室准教授の上瀧恵里子先生より「女性が活躍できる大学を目指して-九大方式女性教員採用・養成システム-」というタイトルでご講演いただきました。講演では、女性限定公募における九州大学での仕組みや採用後の女性教員の成果とその効果について、データや実例を挙げてご紹介いただきました。参加者の方々からは、データに多くの関心が寄せられ、幾つかの実例について質問が寄せられました。



▲講演中の東海大学名誉教授 佐々木政子先生



▲九州大学研究戦略企画室准教授 上瀧恵里子先生

センターでは今後も様々なセミナーやシンポジウム等のイベントの開催を予定しています。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

平成23年1月5日～7日 冬休み学童保育試行

愛媛大学教育学部4号館1階遊戯治療室で教職員のお子さん(小学生)対象の冬休み学童保育が、男女共同参画推進専門委員会の主催、女性未来育成センターの協賛で試行されました。

午前8時から午後7時までという長時間の保育に備え、学童経験者を含む社会人および学生12名で指導員のシフトを組み、小学校1年生から5年生までの男女児童9名をお預かりしました。スタッフには、学童経験者もしくは教員資格を取得している大学生が子どもたちの遊び相手となり、保育士や幼児・初等教育の有資格者あるいは子育て経験のある社会人スタッフが監督者としてつきました。



▲学食にてお昼ごはん

学童保育日誌

初日の朝の会は、スタッフも子どもたちも少々緊張したおももちで自己紹介をしてから、ホワイトボードに書き出された5つの「やくそく」を確認しました。だけど固くなっていたのも最初だけで、優しい大学生のお姉さん、お兄さんと思う存分遊んだ子どもたちは、夕方までにはすっかり打ち解けて、勉強したり、手作りゲームや折り紙などで遊んだり、お弁当を食べたりしていました。



▲おやつ作り

県立図書館等から団体貸出された絵本や遊具も大人気で、遊びのバラエティーを広げるのに役立ちました。

また、愛大ミュージアムには、見学に行ったばかりか、天気の良い日中にミュージアムの中庭でバドミントンや大なわとびをするなど、恰好の外遊びスペースにもなりました。パンケーキを自分たちで焼いて手作りおやつにしたり、最後の日にはみんなで大学の学食に食べに行き、ちょっぴり大学生の仲間入りをした気分を味わったりしました。

——保護者アンケートより

保護者のアンケートには、「スタッフが優しくいっぱい遊んでもらえた」、「指導者が充分いて安心できた」、「アレルギーへの対応や室内に置いたテーブルの角にガードをつけるなど様々な心配りが行き届いていた」、「大変安心して通わせることができた」、「子どもたちもすっかり気に入ったようだ」等とあり、親子ともに満足していた様子でした。今回は参加できなかった保護者からも、「次に実施されるときにはぜひ参加させたい」の声があがっています。さらに何人もの保護者から、夏休みに予定されている次の学童保育実施に向けて、具体的なイベントの提案が数多く寄せられ、大学内で行う学童に対する期待のほどがうかがわれます。

その一方で、料金設定と内容の質との釣り合い、怪我や事故に対する備え、水回りのないスペースで保育することの限界など、今後の課題も示されました。

——安心して働ける環境を

女性教職員が安心して働ける職場にしていくためには、学童保育はたいへん重要な役割を担っています。厚生労働省育成環境課がまとめた2010年5月1日現在の公立小学校に対する放課後児童クラブ実施率(都道府県別)の資料によれば、愛媛県は58.8%で低い方から5番目です。また県内のほとんどの学童が小学校3年生までしか対象としていないため、4年生以上の子どもがいる親たちは、子どもの長期休みに対応できず安心して子どもを預けて働けるとは言いがたい状況です。

愛媛大学上級研究員センターの土屋旬先生は、2010年8月29日高松における科学・技術ミーティングで、子どものいる女性研究者の立場から、「一度長期休職してしまうと復帰が困難」なので、「超人的努力をしなくても研究ができる環境」作りの必要性を訴えました。女性未来育成センターでは、そうした不安をなくし、無理や我慢をしなくてもいい環境の整備を目指していきます。



メールマガジン配信

女性未来育成センターの取り組みなど様々な情報をお届けしています。
配信希望の方はこちらまでご連絡ください。
hime@stu.ehime-u.ac.jp